



順天堂大学 医学部 附属 静岡病院

トップマネジメント研修

医師の働き方改革と看護師特定行為研修修了者の活用

順天堂大学医学部附属静岡病院

本日の内容

1. 病院概要
2. タスク・シフト/シェアに関する看護部の取り組み
 - －看護師特定行為研修について
 - －特定行為実践・実績
3. 今後の課題



順天堂静岡病院 概要



診療科数 34科(診療科目30)

病床数 633床(稼働病床数:631)

職員数 2,126名(2024年4月1日現在)
医師 283名、看護師 925名、助産師 38名、
コメディカル 214名、介護福祉士20名、事務・その他 684名

各種件数 外来患者数:1,752.6人/日、入院患者数:587.8人/日、救急患者数:36.5人/日
救急車搬送件数:7937件/年、手術件数:9,006件/年、分娩件数:799件/年
(2023年度実績)

病床利用率 94.4%(2024年9月末実績)

平均在院日数 11日(2024年9月末実績)

看護配置 7対1(急性期一般入院1)

※ (2024年10月1日現在)



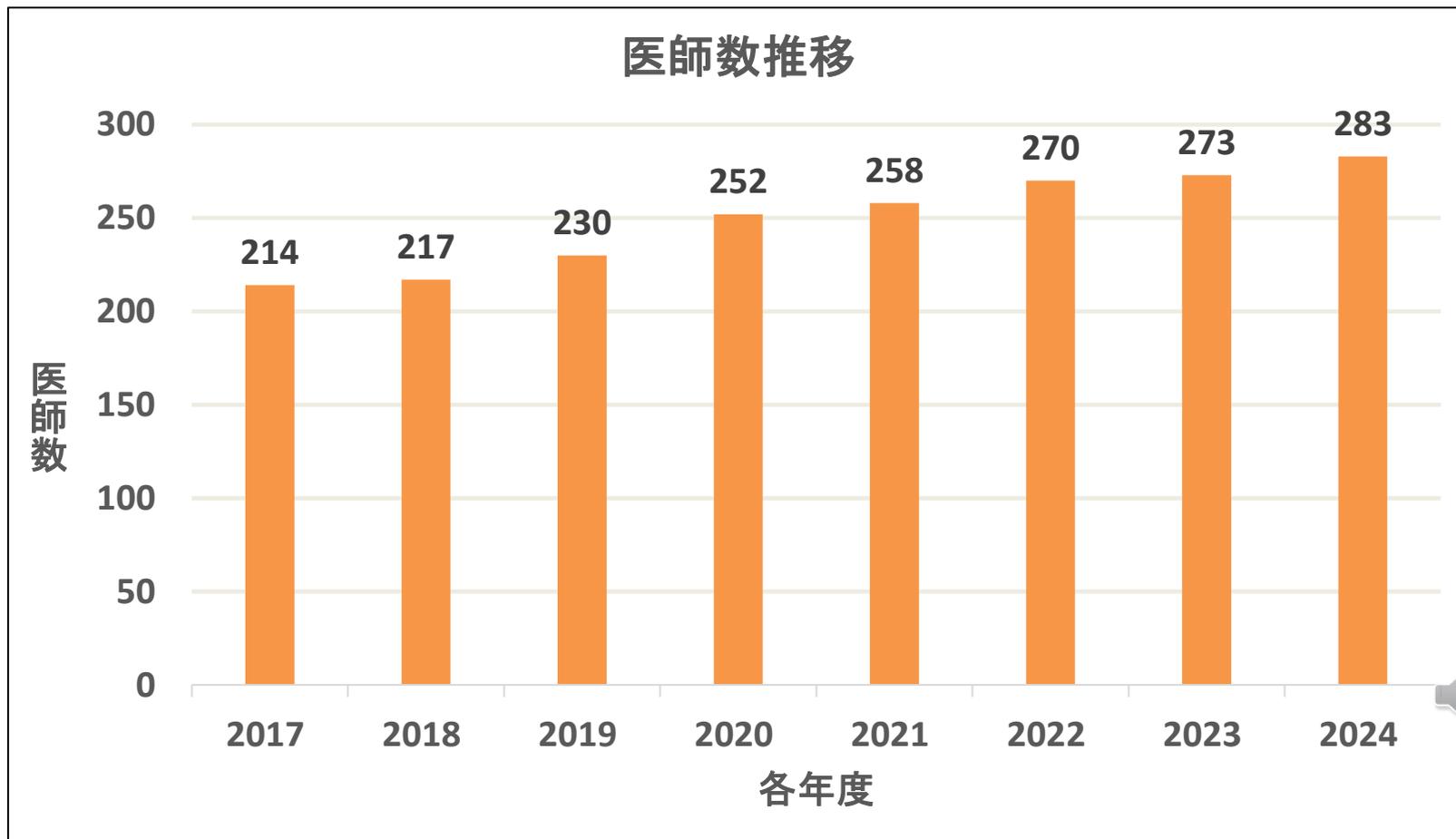


【主な指定・認定項目】

- 救命救急センター（昭和56年）
- 新生児センター（昭和57年）
- 災害拠点病院（平成8年）
- 静岡県中部、東部ドクターヘリ運行基地病院（平成16年）
- 地域がん診療連携拠点病院（平成19年）
- 総合周産期母子医療センター（平成20年）
- 地域医療支援病院（令和2年4月）
- **看護師特定行為指定研修機関（令和2年4月開校）** 
- 地域医療連携推進法人（令和3年9月）

※（2024年10月1日現在）

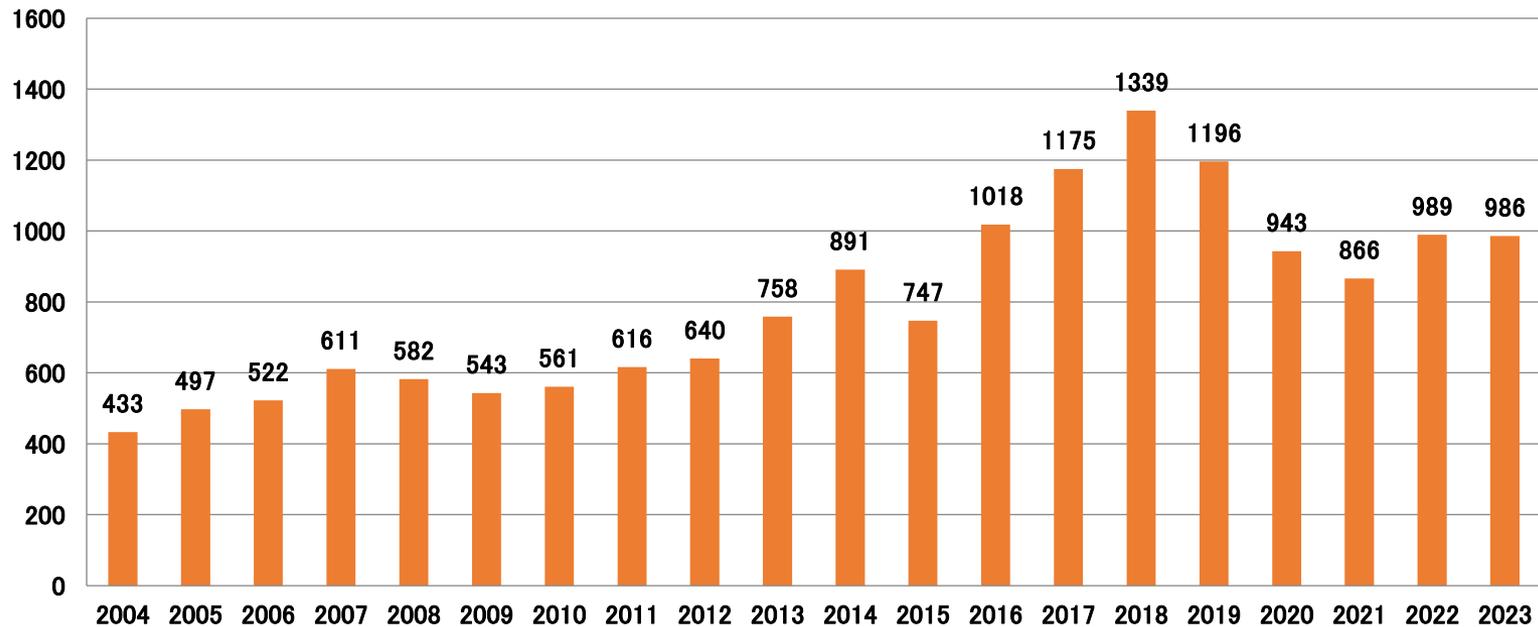
医師の確保・養成状況



※研修医を含む

静岡県東部ドクターヘリ年度別出動件数 (順天堂静岡病院)

静岡県東部ドクターヘリ出動件数(年度別)

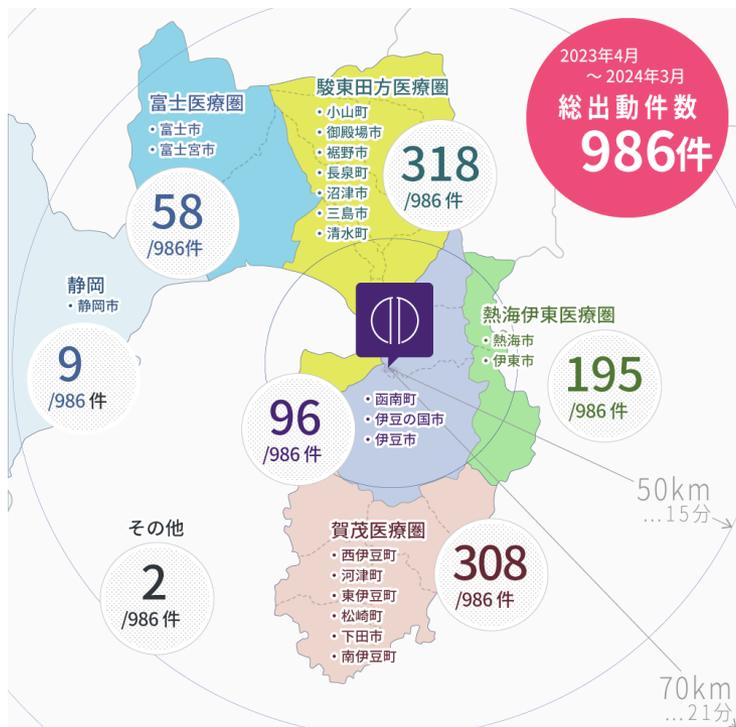


年 度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
順天堂静岡病院	433	497	522	611	582	543	561	616	640	758	891	747	1,018	1,175	1,339	1,196	943	866	989	986

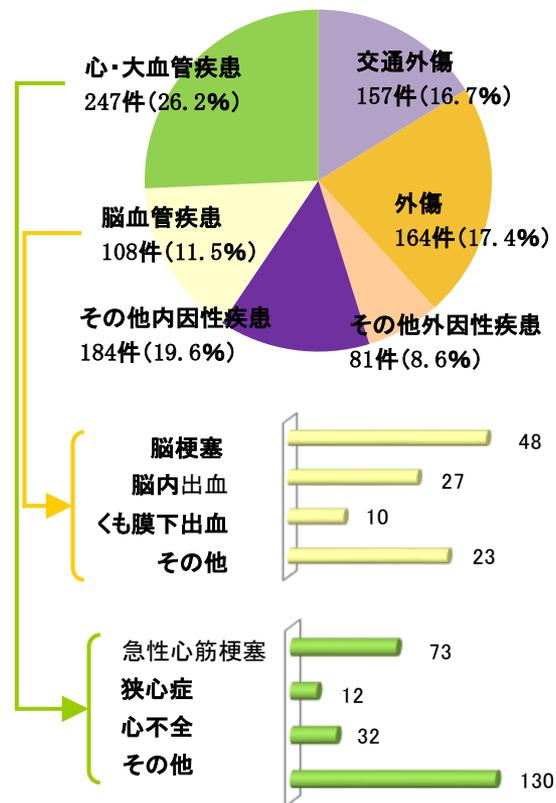
ドクターヘリ出動状況 (2023年度)

(救急医療)(僻地医療)(7疾病)

医療圏別出動件数



疾患別分類(参考)



医師の働き方改革における動き

○医師の働き方改革における取り組み

2035年におけるA水準の達成

- ・ ビーコンによる医師の就業時間の把握
- ・ タスクシフト推進委員会の開催
- ・ 各部門ごとの業務内容の再検討
- ・ 人員配置の再検討



看護師特定行為研修修了後の看護師の活用について

順天堂大学静岡病院における 特定看護師の現状について

看護部長 堀込克代
診療看護師(NP) 多田真也



看護師特定行為とは 特定行為38行為21区分

診療の補助であって、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるもの

保健師助産師看護師法第37条2

特定行為区分	特定行為
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	人工呼吸器からの離脱
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換
循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理
	一時的ペースメーカーリードの抜去
	経皮的心肺補助装置の操作及び管理
	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整
心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーンの抜去
胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更
	胸腔ドレーンの抜去
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
	膀胱ろうカテーテルの交換
栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	中心静脈カテーテルの抜去
栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入

特定行為区分	特定行為
創傷管理関連	褥（じよく）瘡（そう）又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
透析管理関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	抗けいれん剤の臨時的投与
	抗精神病薬の臨時的投与
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗不安薬の臨時的投与
	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

医師の手順書とは

手順書は、医師又は歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるために、その指示として作成する文書であって、「看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲」、「診療の補助の内容」等が定められているもの。

1. 看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲
2. 診療の補助の内容
3. 当該手順書に係る特定行為対象となる患者
4. 特定行為を行うときに確認すべき事項
5. 医療安全を確保するために医師または歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制
6. 特定行為を行った後の医師または歯科医師に対する報告の方法



順天堂静岡病院における 看護師特定行為研修の経緯

勤務環境改善委員会

医師の働き方改革

(2024年から時間外労働に規制、罰則規定あり)

タスクシフティング・タスクシェアリング

法人の意思決定(医院でも開講予定)

看護師特定行為研修のプロジェクトが決定
(2020年4月の指定研修機関に向けて申請)

看護部の期待

医師不在時のタイムリーな患者対応

看護師としての実践能力向上

看護師の自律した患者マネジメント

看護部の質の向上



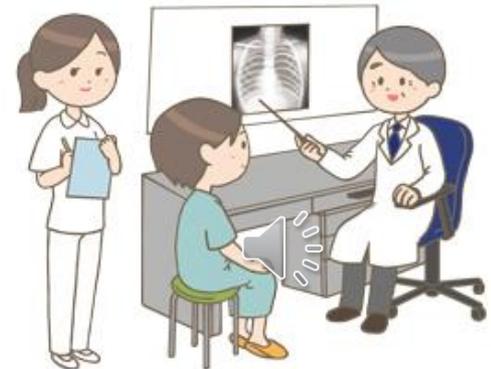
医師の期待

医師業務の代行

有能な看護師の活動による医師の負担軽減

医師と協働する診療ケア

医師不在時のタイムリーな患者対応



順天堂静岡病院における看護師特定行為研修の経緯

医師の働き方改革（2024年4月）導入
タスクシフティング・
タスクシェアリングの推進



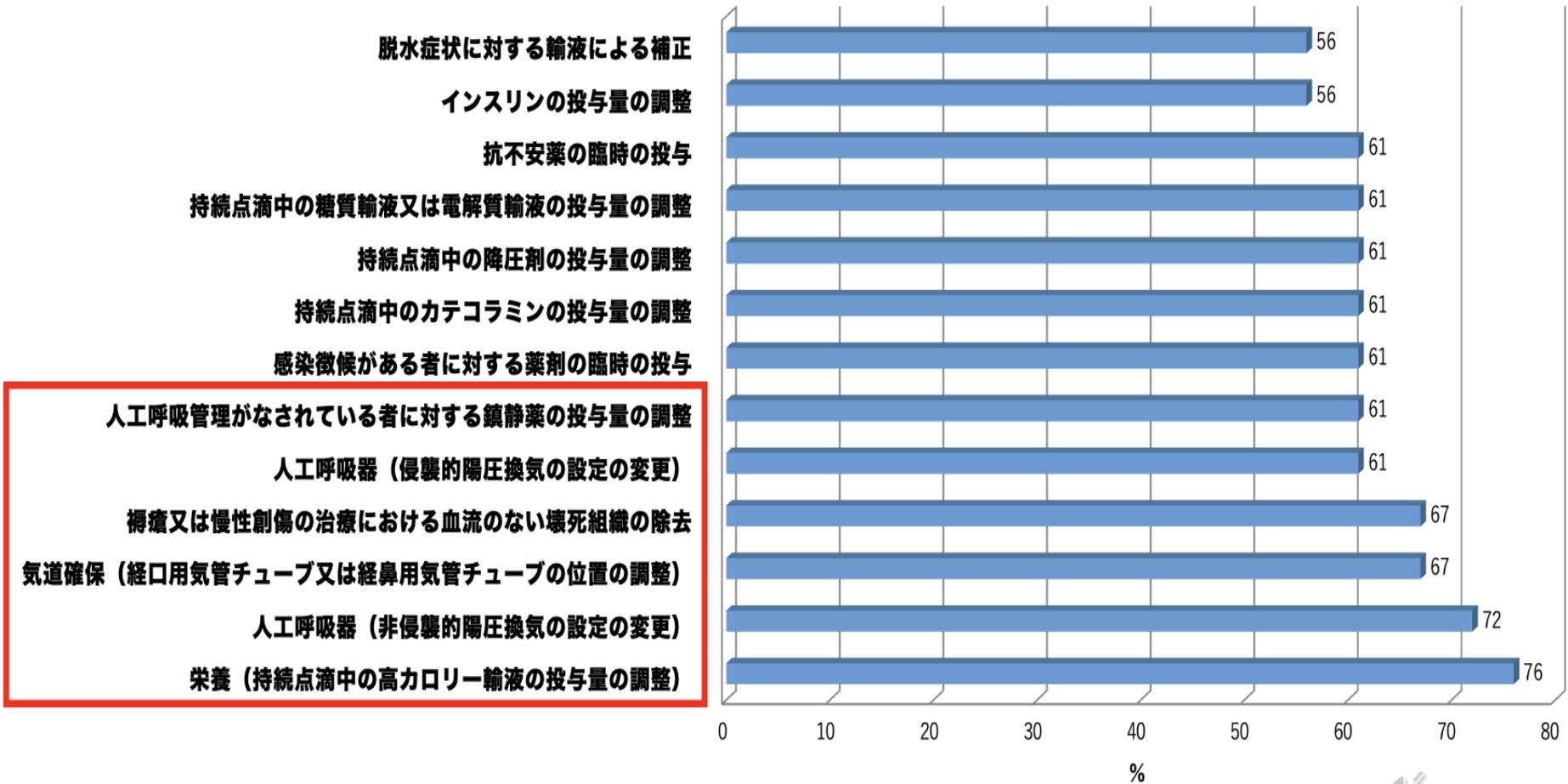
看護ケアの向上
看護師のモチベーションアップ

2019年5月	指定研修機関の申請(5区分、11行為)
2019年8月	指定研修機関の承認
2020年4月	研修開始
2020年8月	区分追加承認(2区分2行為)
2021年8月	領域別パッケージの追加承認(3パッケージ)
2023年2月	区分追加承認(1区分3行為) ※うち1行為はパッケージに含まれている
2023年8月	区分追加承認(1区分1行為)
2024年2月	区分追加承認(1区分2行為)
2024年8月	区分追加承認(1区分1行為)



特定行為院内ニーズ調査(全診療科)

2019年7月



自施設のニーズを捉え研修を構成
人工呼吸器関連や創傷管理関連を中心に開始



当院で実施している特定行為区分

区分別	領域別パッケージ
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	術中麻酔管理領域パッケージ
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	
ろう孔管理関連(2024年度開講)	救急領域パッケージ
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 (2024年8月承認)→(2024年度開講)	集中治療領域パッケージ
創傷管理関連	
創部ドレーン管理関連	
動脈血液ガス分析関連	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	
感染に係る薬剤投与関連(2024年度開講)	
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	



看護部理念・特定行為受講要件

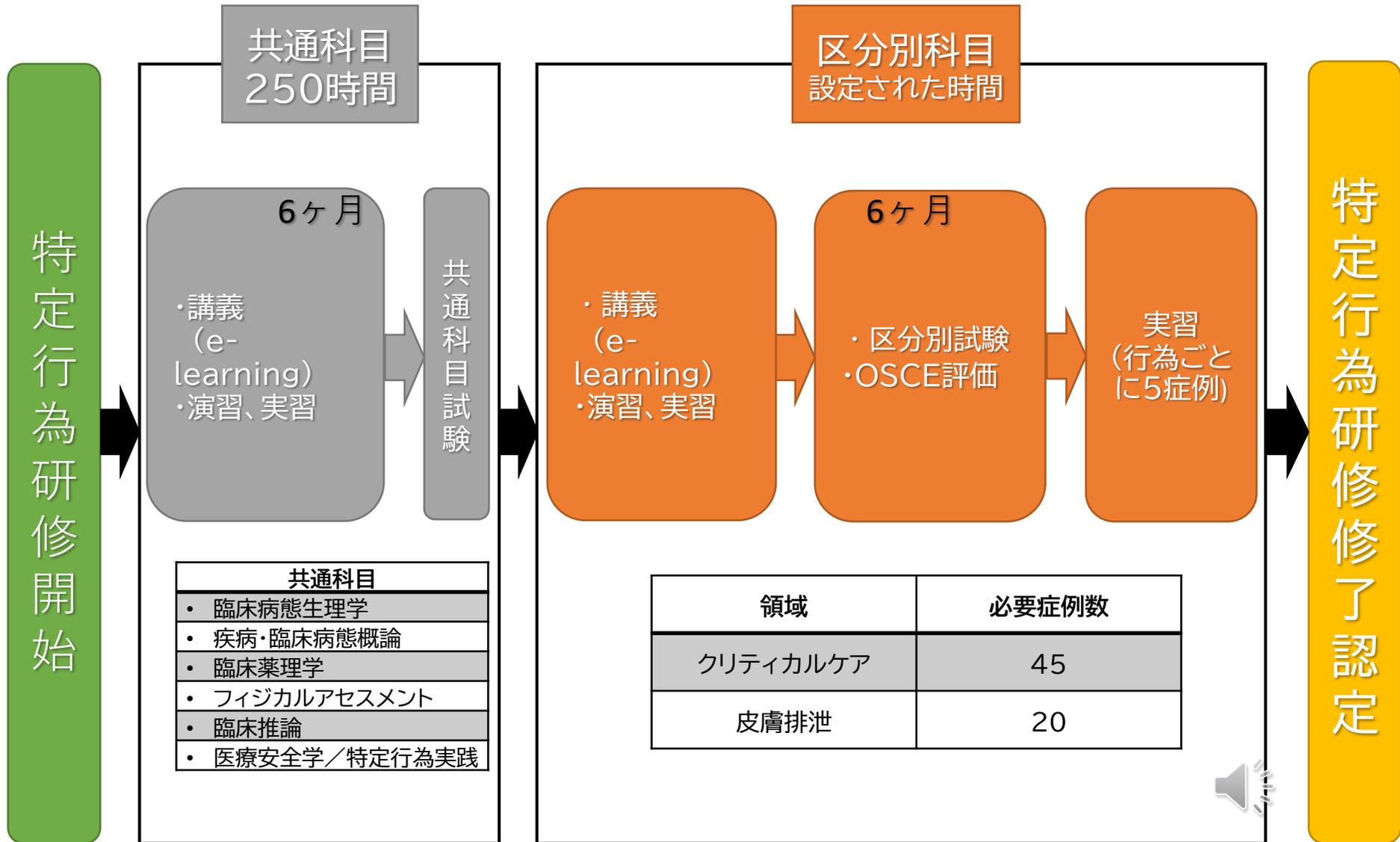
- ・高度急性期医療を担い、
臨床判断能力を備えた高度実践を行うジェネラリスト看護師を育成する。
- ・専門職としての倫理観、自律した判断のもと、医療の安全を担保した上で、
特定行為を実施する。

受講要件

- 1) 看護師**経験5年以上**で、そのうち3年以上は
特定行為研修に関連する領域とする
- 2) キャリアラダーII以上で**リーダー業務**ができる
- 3) **所属長の推薦**を有すること
- 4) **部署における特定行為の需要**があり、
研修修了後にその成果を活かせること
- 5) 特定行為研修の**履修に関して強い意志**があり、
主体的に取り組みができる
- 6) 本人のキャリア形成のためだけでなく
「患者のために・組織のために」という意識が
以上、1) から6) の条件を全て満たすこと。



研修イメージ(1年間)



修了者の活用・配置

部署固定配置で包括的指示による患者マネジメントを自律的に実施し、部署の診療ケア管理に貢献

メリット	医師の働き方改革に最も効果的
課題	医師の働き方に影響が出るまでに長時間かかる

活動例: HCU、ICU、ERで各勤務帯に1人以上いるように配置し状況に応じて複数の特定行為を活用し、患者マネジメントを行う

特定行為看護師37名（内 師長:3名 主任:15名）2024年9月1現在 

特定看護師の配置



救命救急センター・術後ICU:16名
主任看護師は全て特定看護師を配置



救急外来:3名



手術室:2名



特定看護師配置



一般病棟:10名
新生児センター:1名



皮膚科外来・外来検査:4名



スキンケアチーム
創傷管理関連修了者



RRSチーム(2023年から開始)



課題と今後の展望

課題:

1. 継続的な研修の実施と研修プログラムの拡大
(ろう孔管理関連・PICC挿入)
2. 医師・看護管理者への特定看護師の活用周知
3. 継続的な活動評価とPR
4. 研修修了生による教育的役割発揮

展望:

1. 看護師のキャリア開発プログラムに導入
2. 術後疼痛管理チーム加算の取得



看護師特定行為研修センター理念

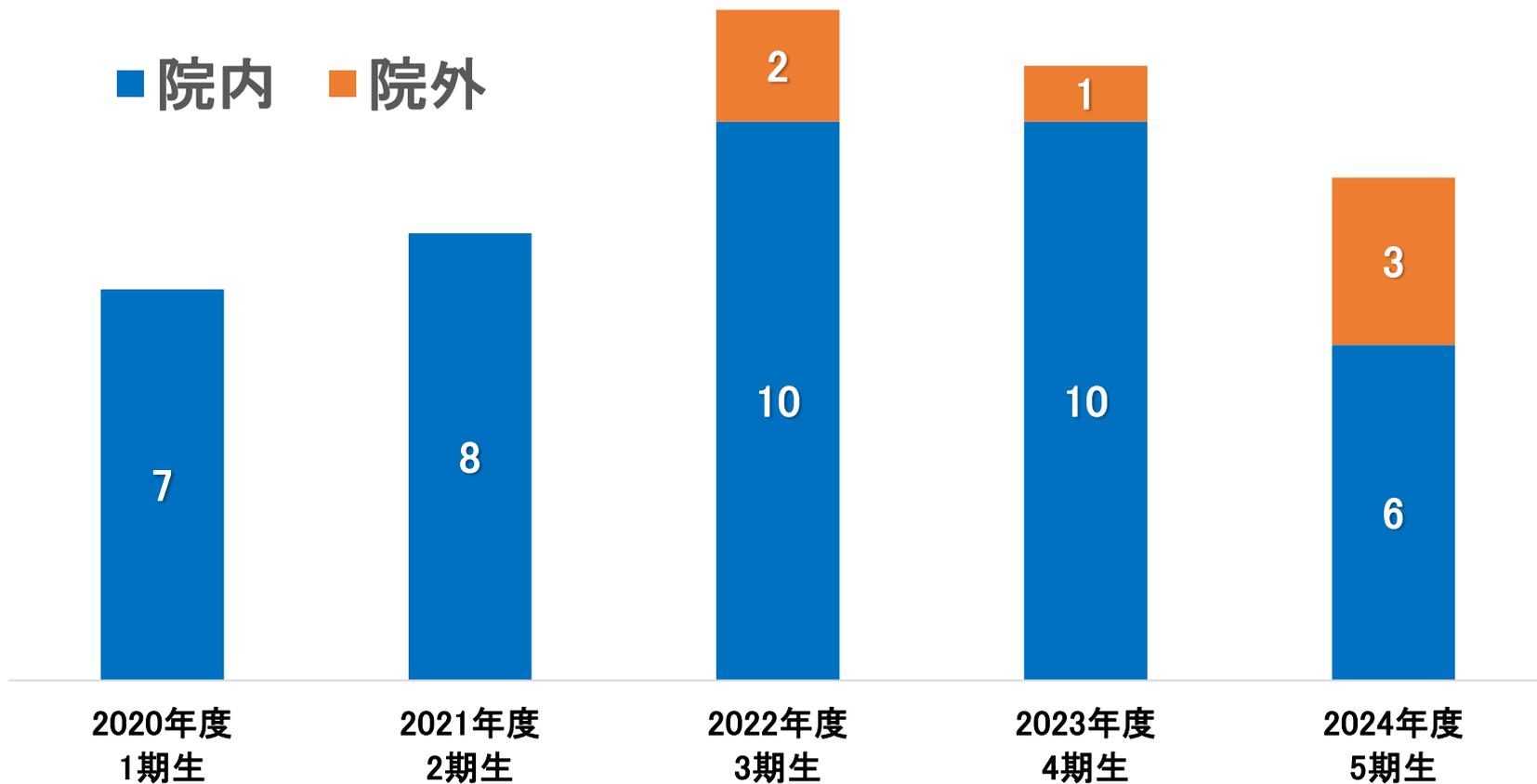
高度急性期医療、地域医療に貢献できる看護師を育成する

地域に開かれた研修センターを目指す!!



当研修センター受講者数

■ 院内 ■ 院外

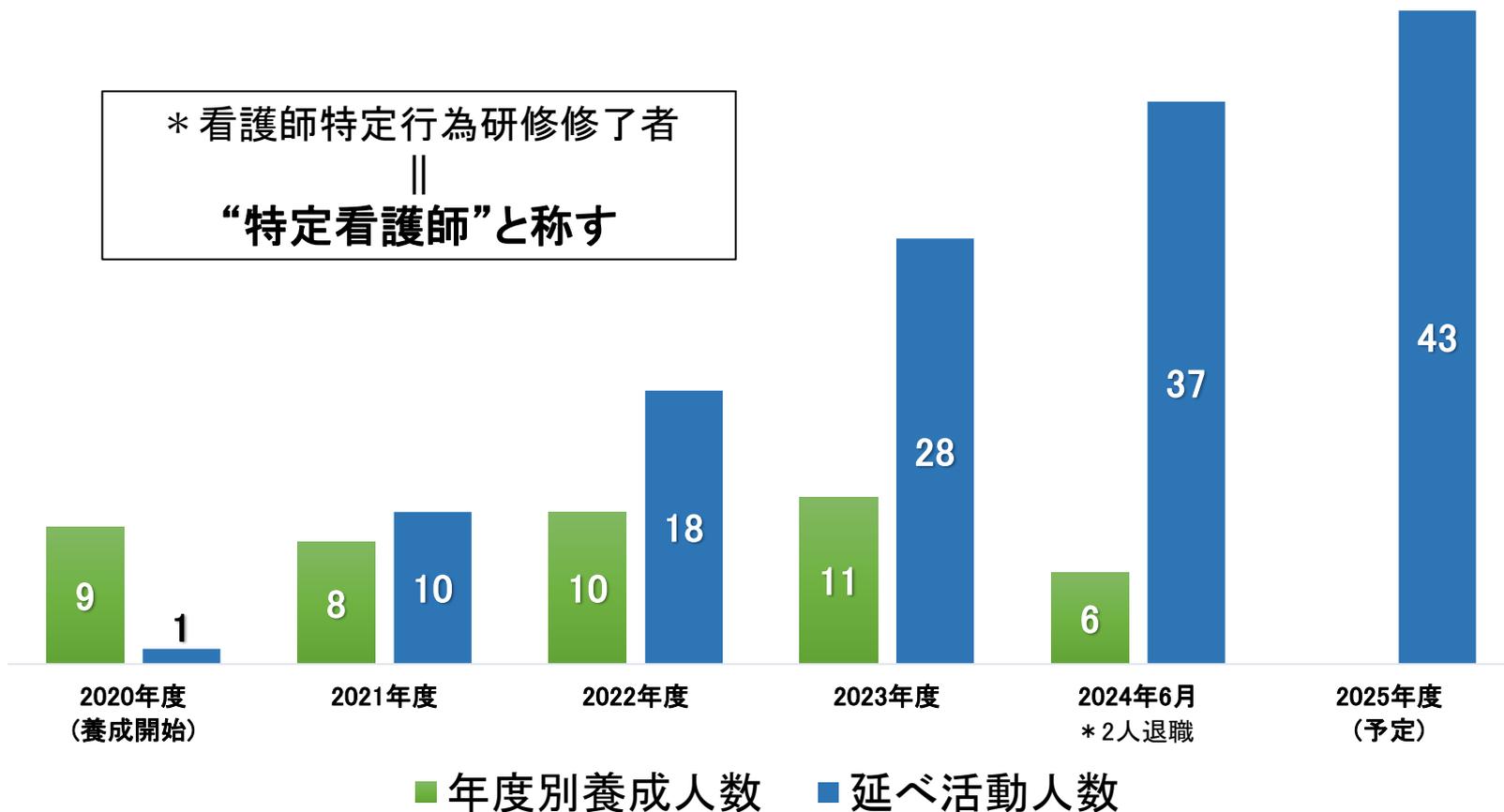


受講者数：5年で47名



当院の特定看護師・特定認定看護師・診療看護師数 推移

* 看護師特定行為研修修了者
||
“特定看護師”と称す



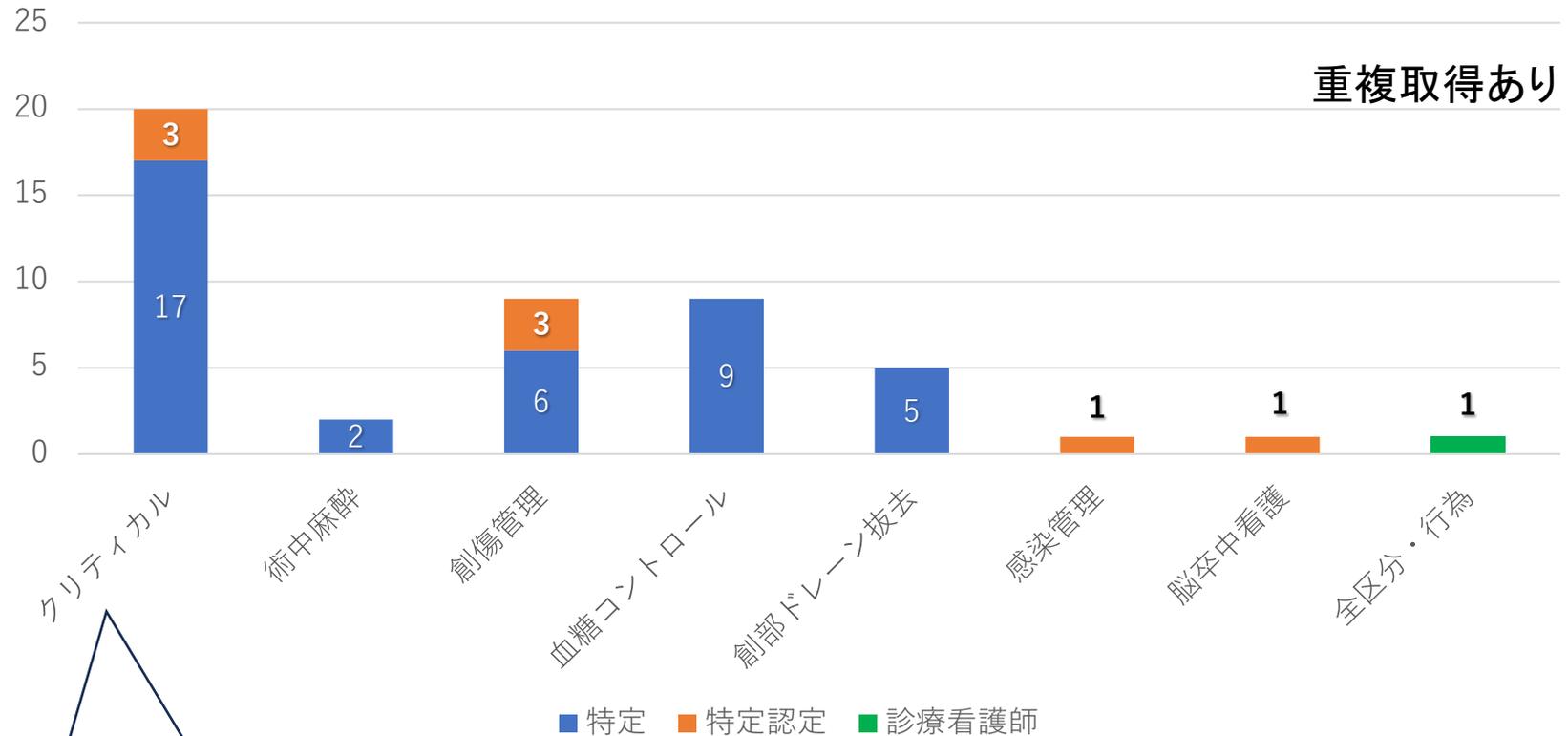
<認定看護師(B課程)>

2020年度: WOCN、乳がん看護…がんセンター

2023年度: 感染管理…看護協会



特定・特定認定・診療看護師 2024年度 領域別構成



- ・パッケージ（救急、集中治療領域）
- ・呼吸器（気道確保に係るもの、人工呼吸療法に係るもの）関連
- ・動脈血液ガス分析関連



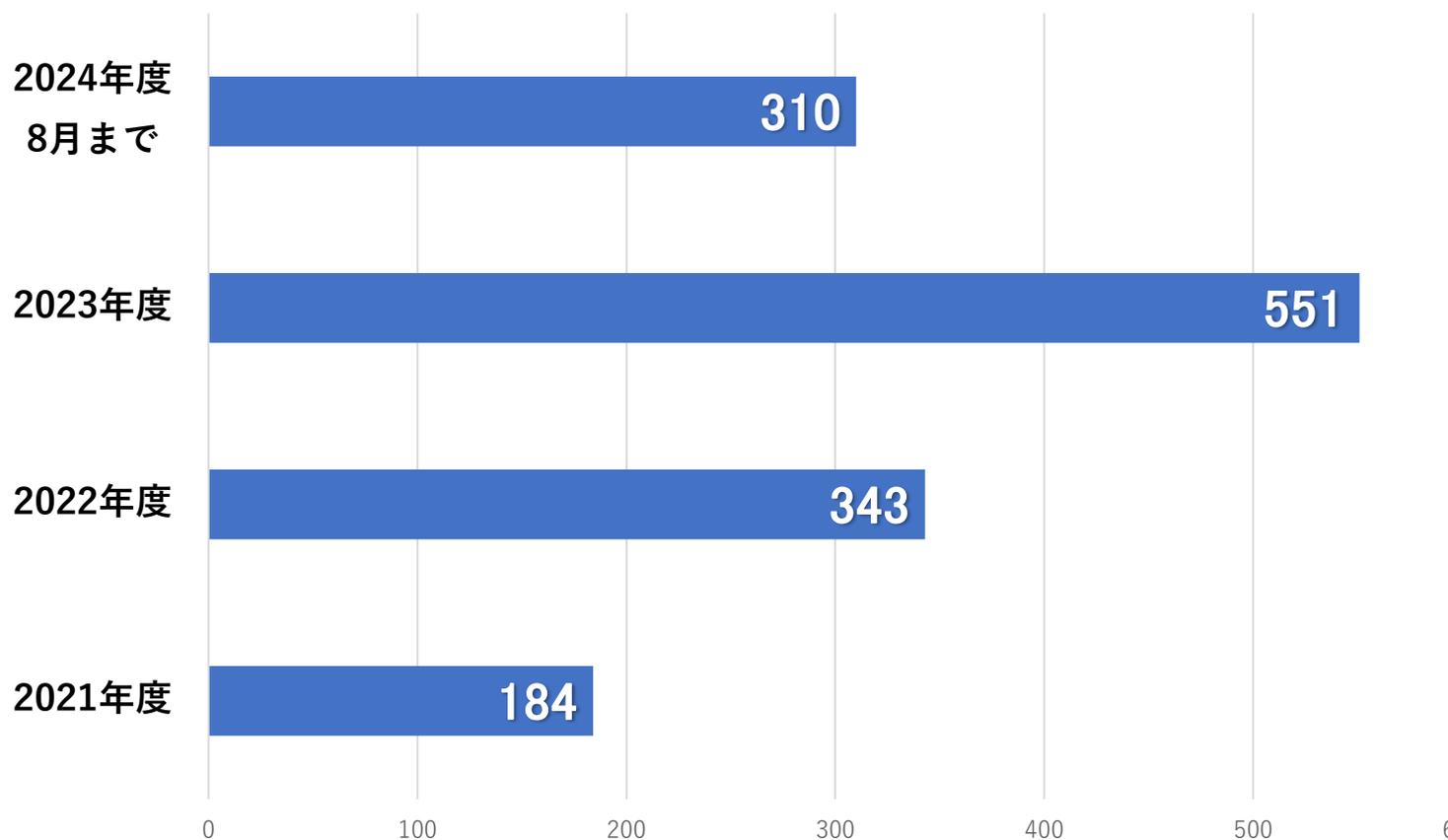
2023年度 特定・特定認定・診療看護師の配置数

部署	総数	うち主任/師長
救命救急センター（救急外来、HCU、ICU・CCU）	9	4 / 0
General-ICU	2	1 / 1
手術室	2	1 / 0
一般病棟（脳外科、外科、整形外科、循環器、呼吸器内科、混合）	11	3 / 1
外来（WOCN含む）	4	2 / 0
計	28	11 / 2

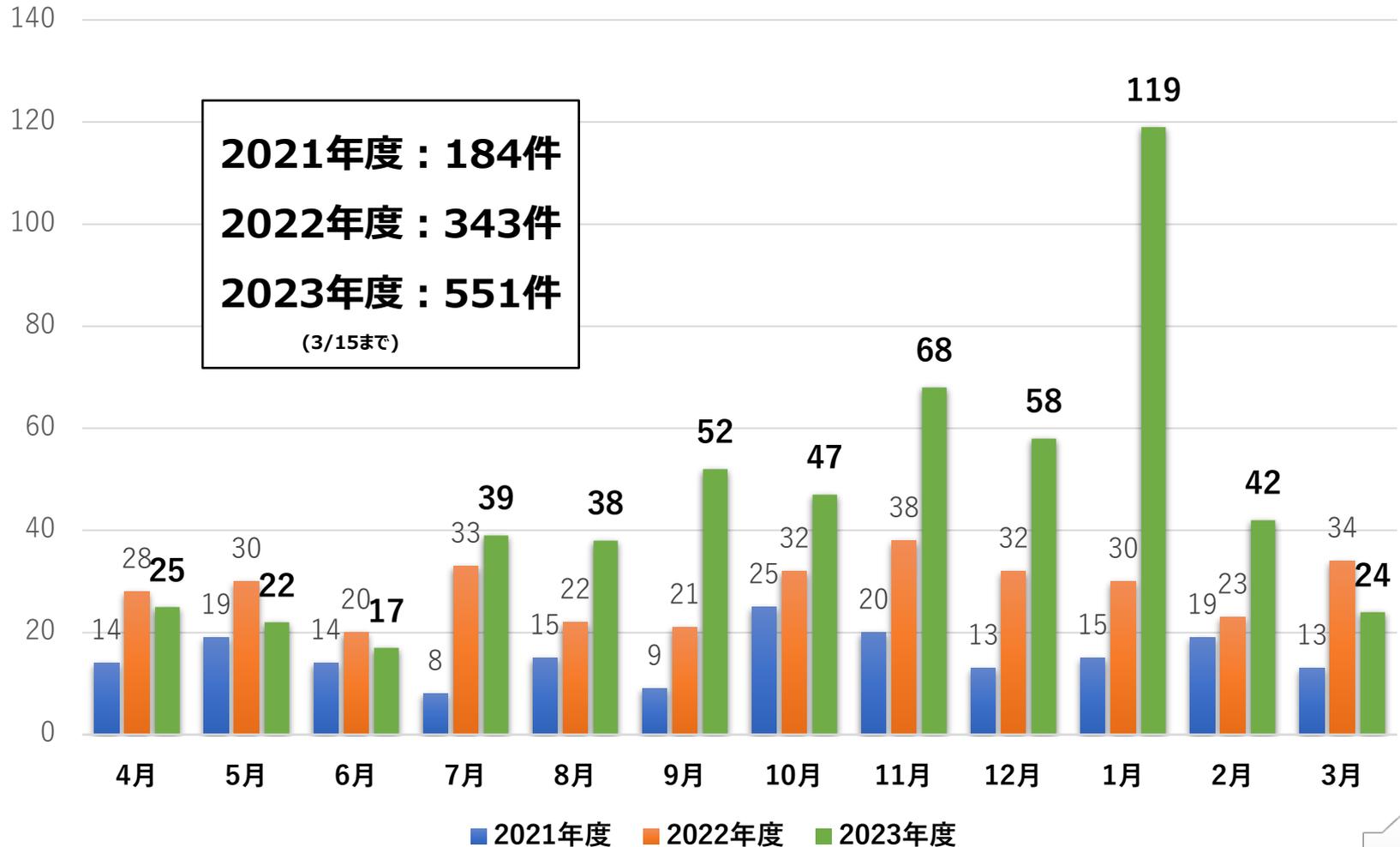
- ・ 一般病棟 11病棟中6病棟（54.5%）
- ・ 合計28人のうち中間管理者 師長2人・主任11人(46.4%)



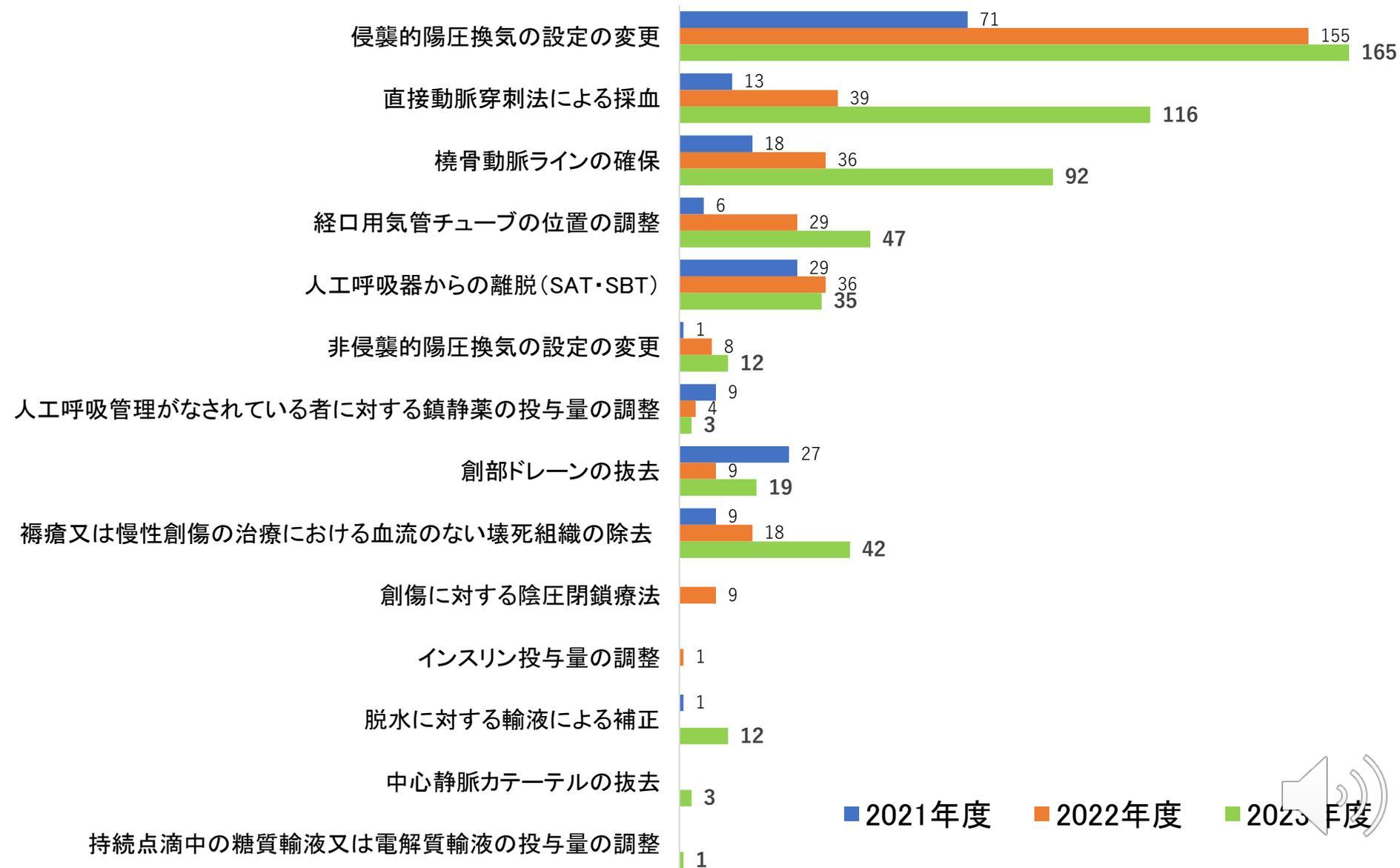
特定行為実施数 年度別



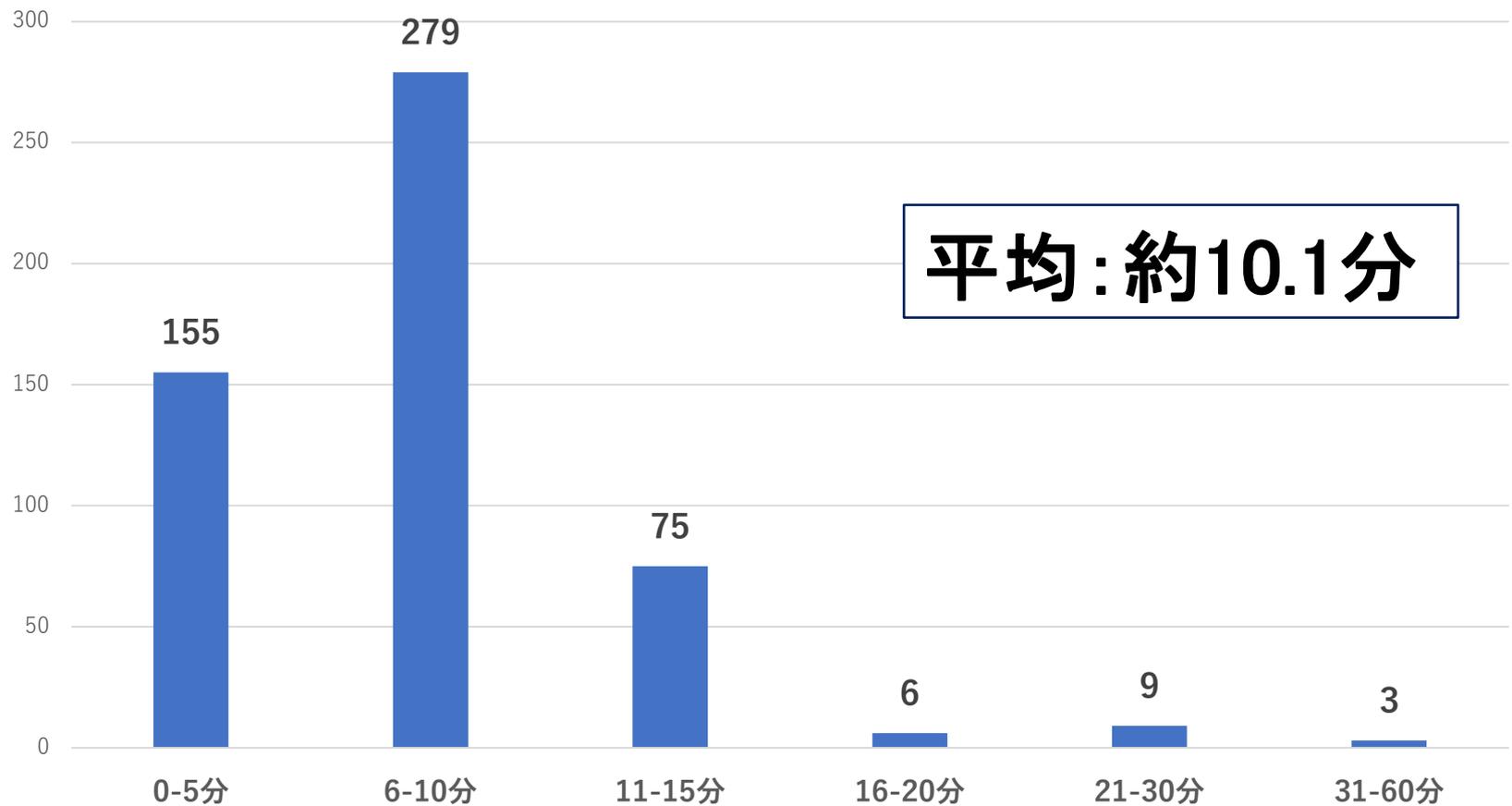
特定行為実施数 月別



特定行為別 実施数



2023年度 特定行為に要した時間(分)

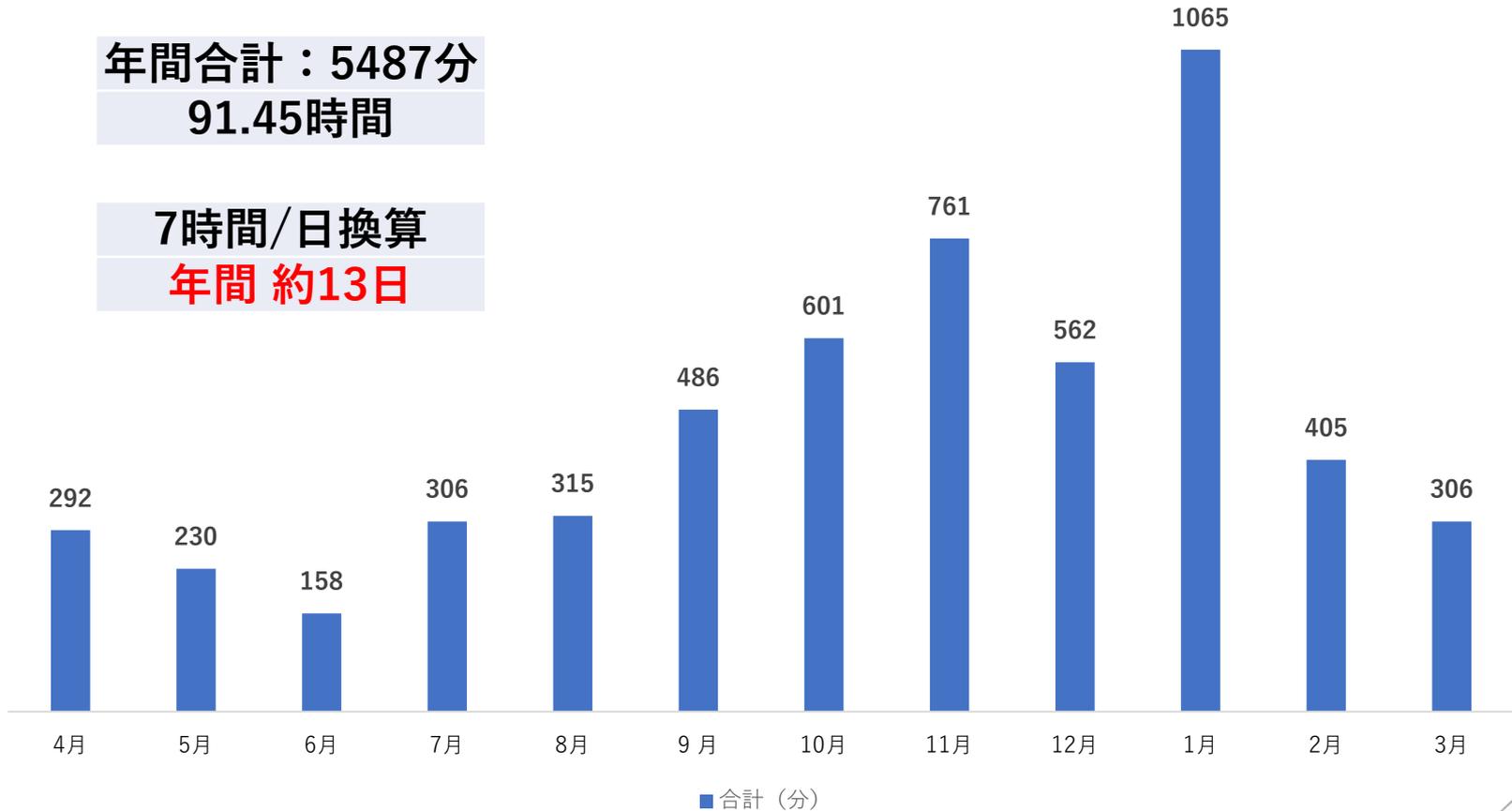


特定行為に要した時間(分)

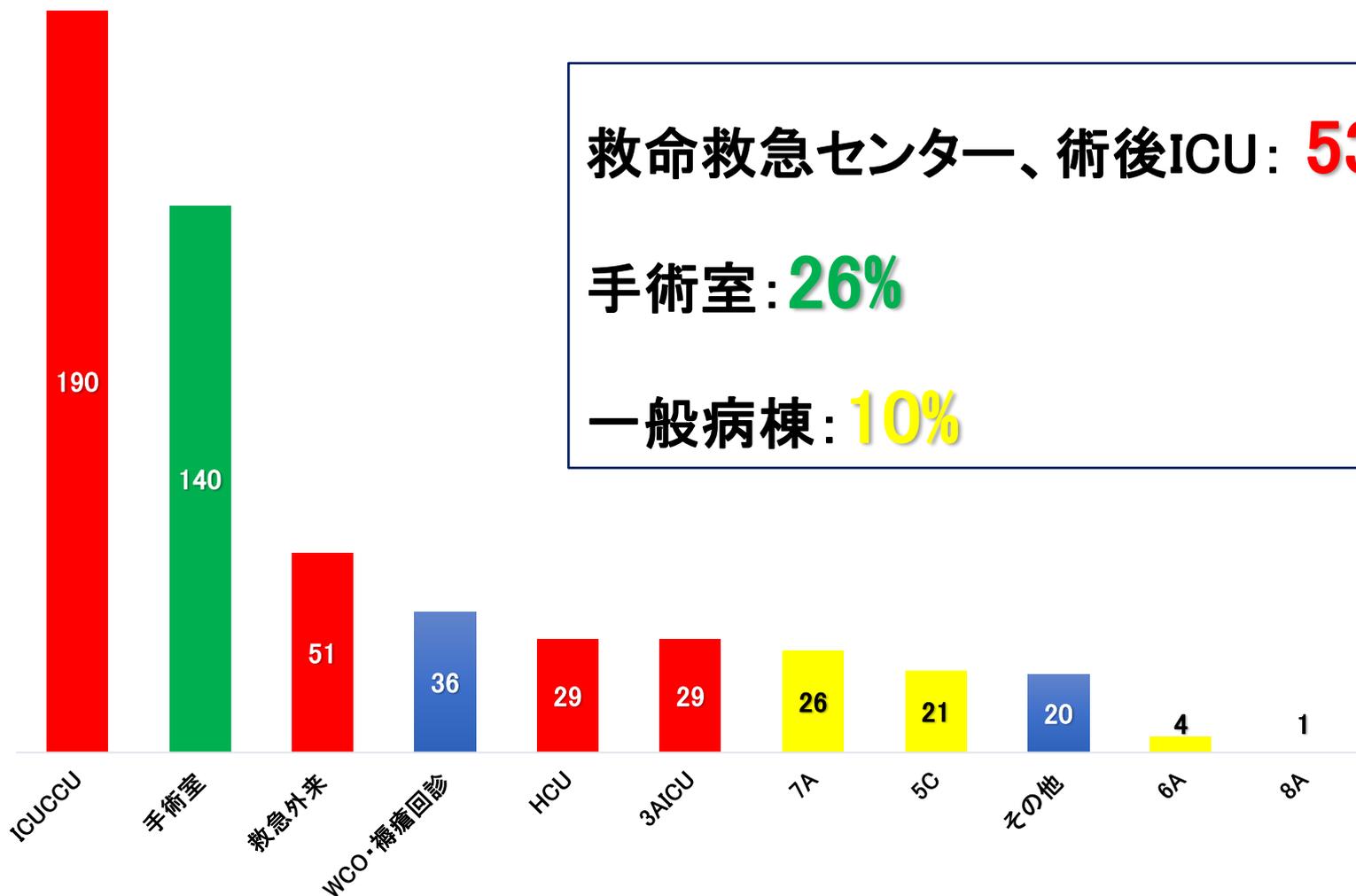
2023年度 月別

年間合計：5487分
91.45時間

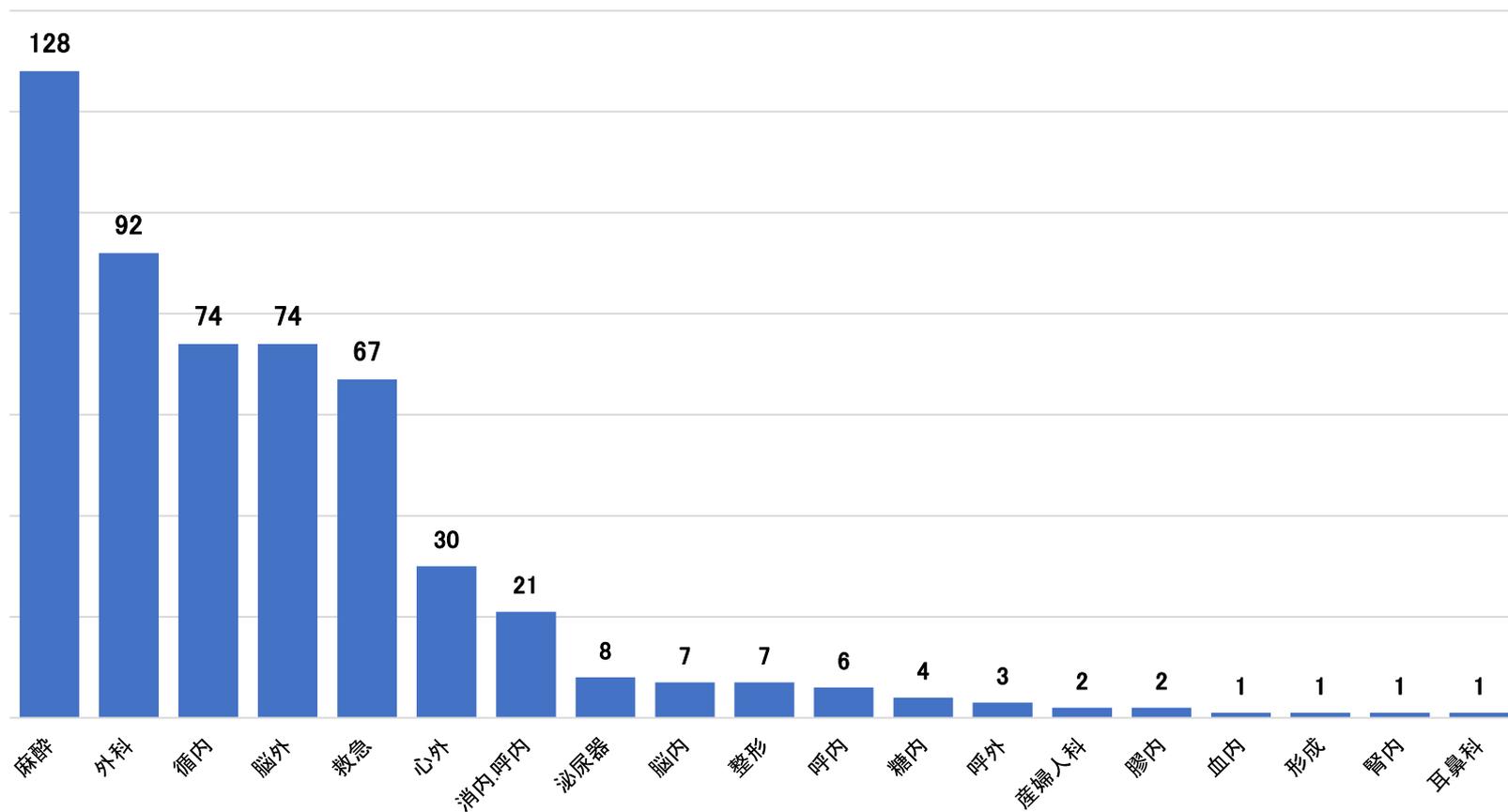
7時間/日換算
年間 約13日



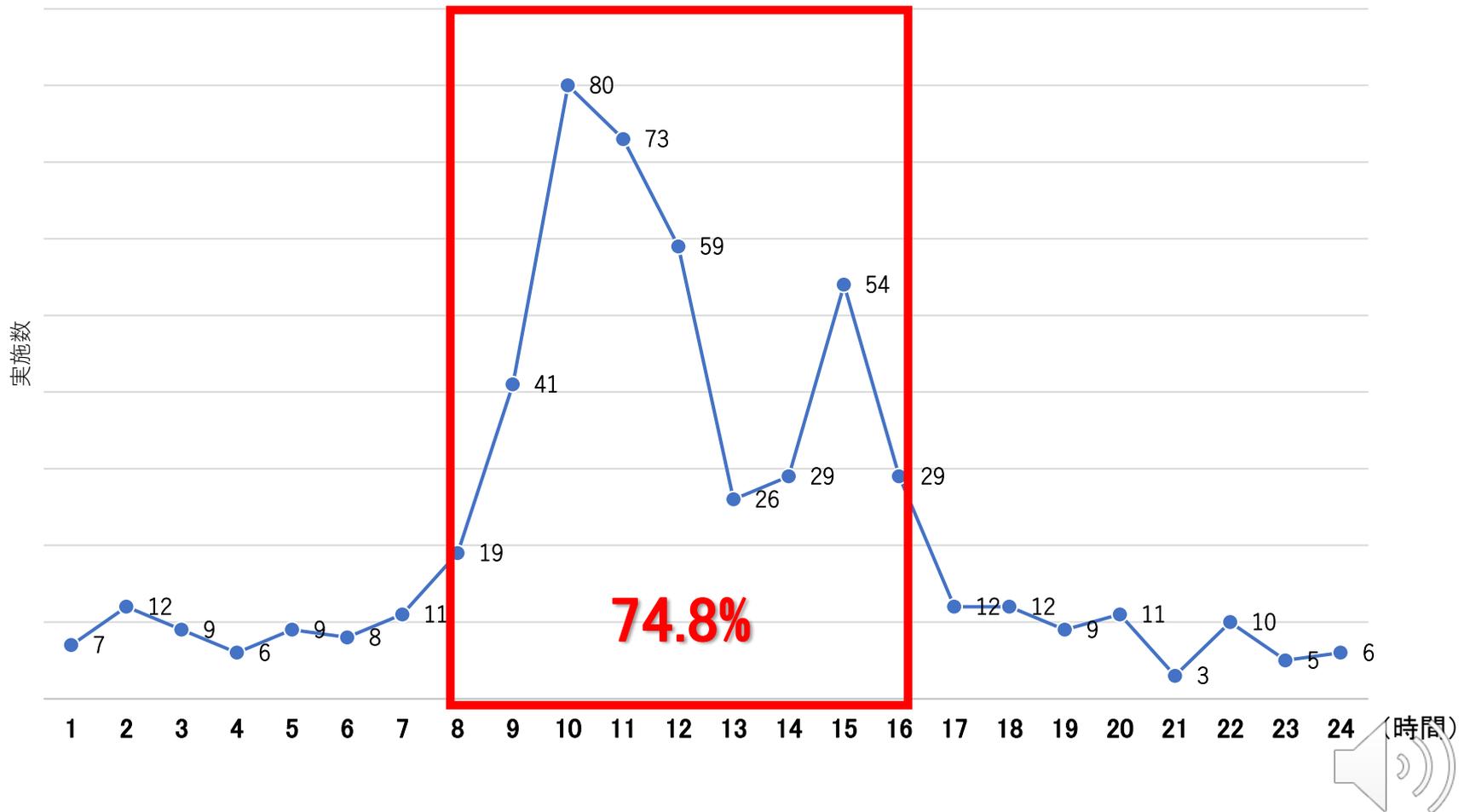
2023年度 実施部署



2023年度 診療科別

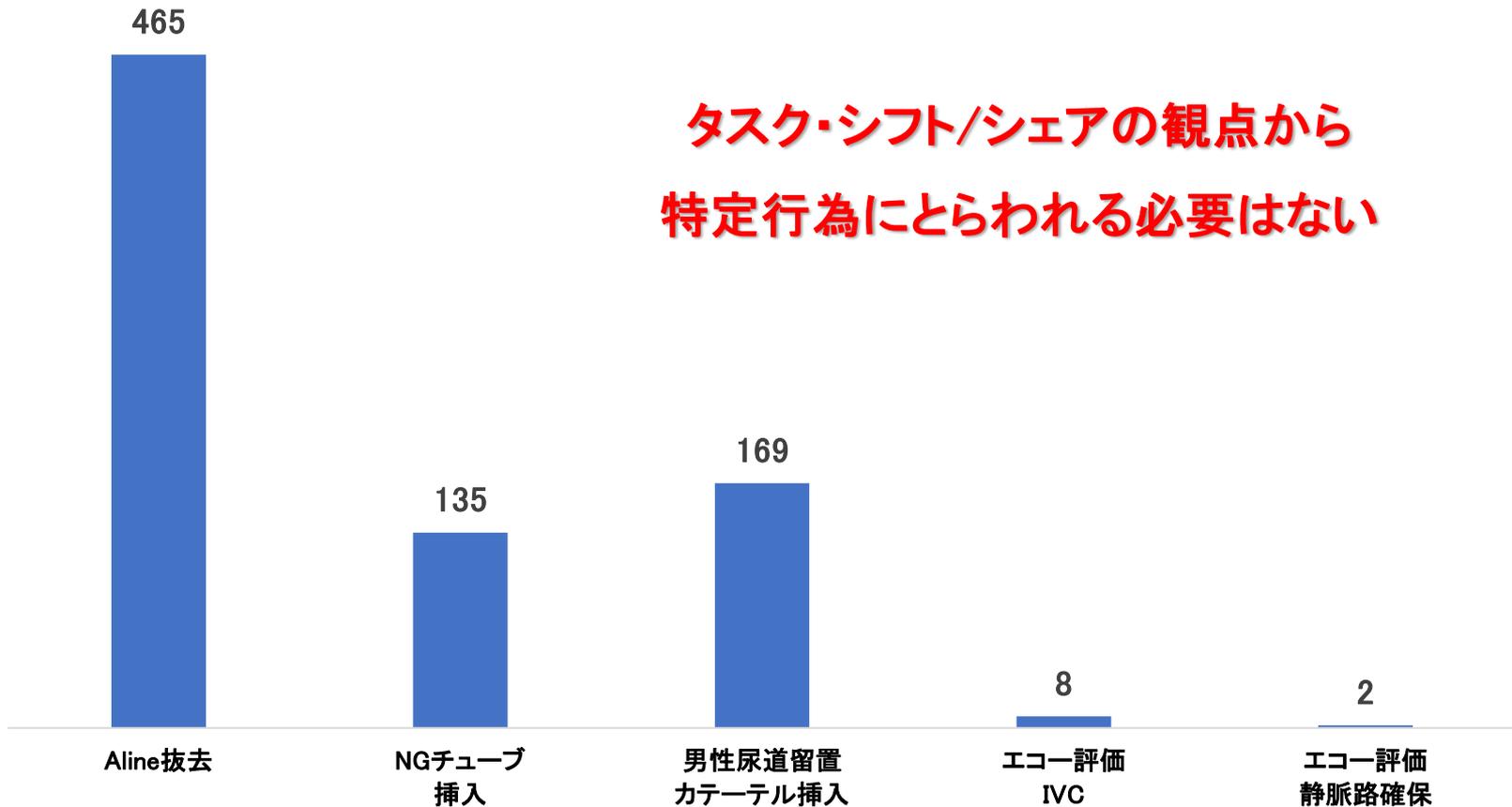


2023年度 実施時間帯



特定看護師に限定して行なっている処置

タスク・シフト/シェアの観点から
特定行為にとらわれる必要はない



看護師特定行為とは

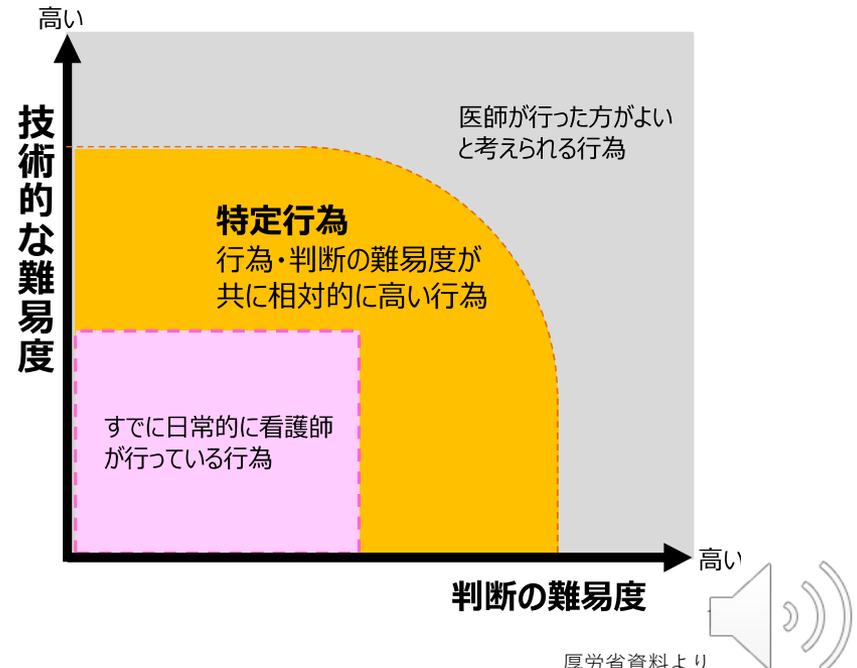
特定行為は、診療の補助であって、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるものとして別紙に掲げる38行為であること。

(改正後の保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号)

特定行為の決定プロセス

- 平成22年度厚生労働科学研究補助金「看護師が行う医行為の範囲に関する研究」
⇒ 203行為抽出
- 第20回チーム医療推進会議で報告
チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループで議論
⇒ 特定行為（案）41行為
- 医道審議会保健師助産師看護師分科会
看護師特定行為・研修部会で議論
特定行為（案）41行為 ⇒ 38行為に決定

特定行為のイメージ



多職種の声

医師

- **タイムリーな対応**をしてもらっている。
- 医師との情報共有を活発に行い**根拠を持ったケア**を実践してほしい。
- **特定行為実施後の継続的な観察や評価**を実践してほしい。

理学療法士

- 鎮静薬の調整、呼吸器設定の調整を行い早期離床につながることを期待している。
- ライン類の管理（不要なラインの抜去等）を行いリハビリが遂行しやすい状態にしてくれるとありがたい。

臨床工学技士

- 呼吸器の設定変更を積極的に行ってくれていて助かっている。
- 分からないことがあれば気軽に相談して共に患者の安全を守っていききたい。

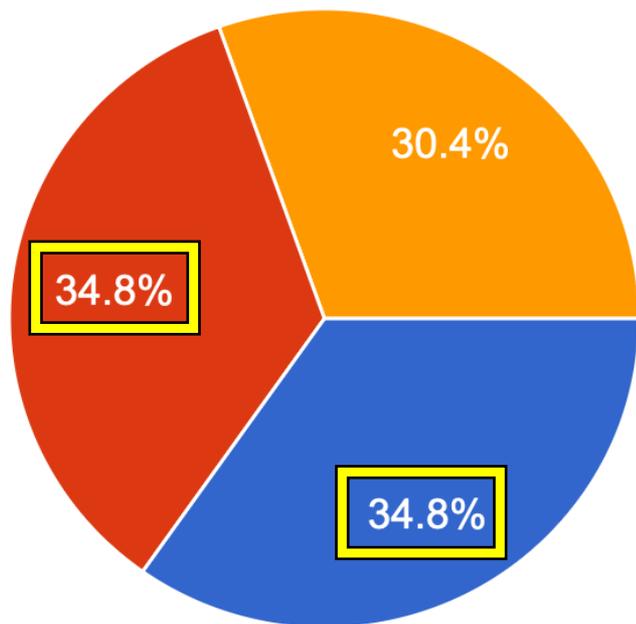
看護師

- **知識や技術をその場で教えてもらえる**ため勉強になる。
- **医師が即座に対応できない時もすぐに対応**してもらえる。
- 同勤務帯にいると心強い。



特定行為の実施により、 業務負担軽減を実感しているか？

2024年9月調査 (n=23)



- 負担軽減を実感している
- ある程度は負担軽減を実感している
- あまり負担軽減を実感していない
- 全く負担軽減を実感していない

プロモーション不足・・・

知っているようで、知らない＝存在は知っている
が、何をしてくれる看護師かははっきり分からな



2024年度 特定・特定認定・診療看護師の配置数

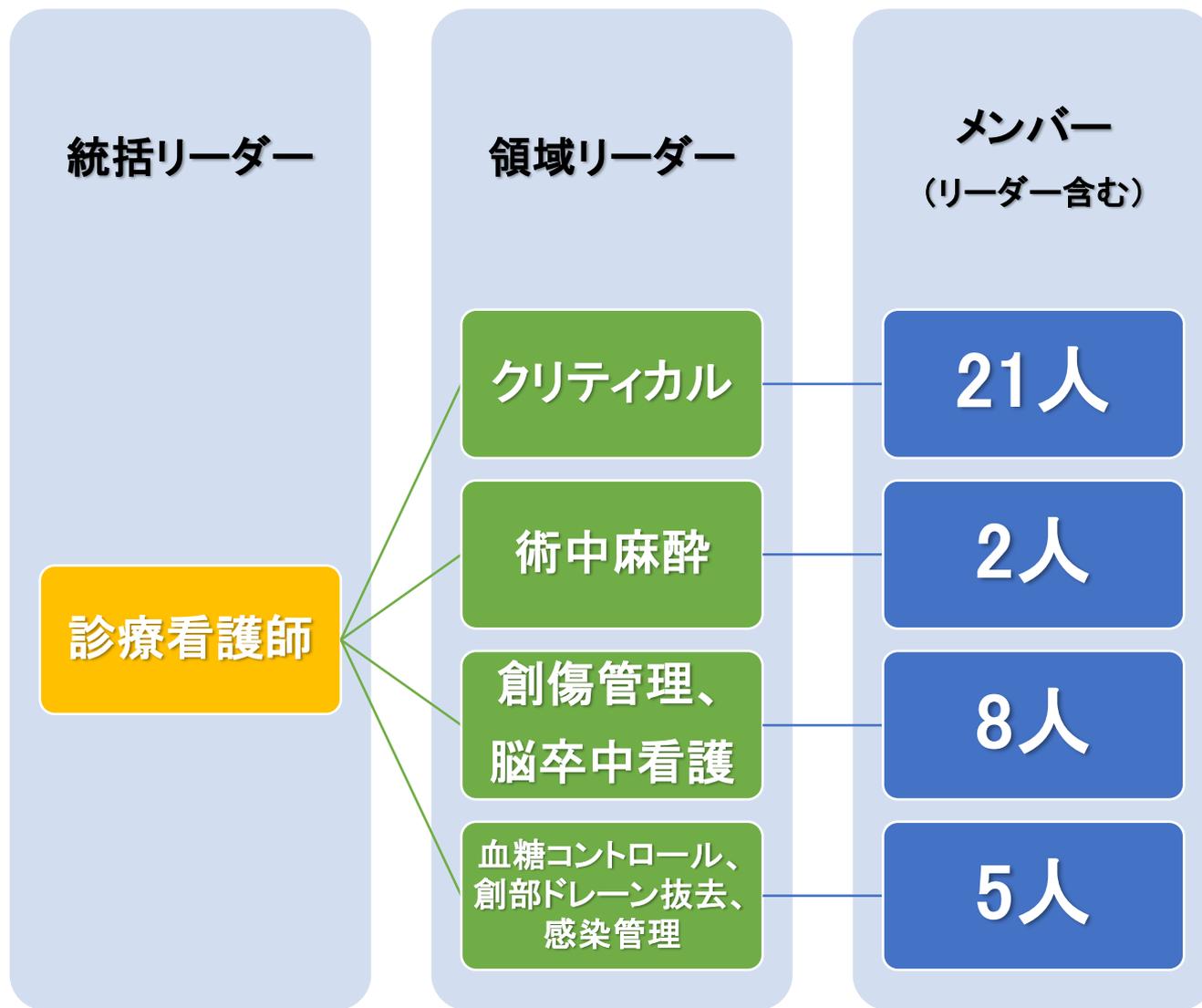
部署	総数	うち主任/師長	
救命救急センター（救急外来、HCU、ICU/CCU）	13	5 / 0	56.8%
General-ICU	6	1 / 1	
手術室	2	2 / 0	
一般病棟（脳外科、外科、整形外科、循環器、呼吸器内科、混合）	9	6 / 0	
外来（WOCN含む）,他	6	1 / 1	
新生児センター	1	0 / 1	
計	37	14 / 3	

- ・ 一般病棟 12病棟中8病棟（66.7%）
- ・ 合計37人のうち中間管理者 師長3人・主任14人(45.9%)



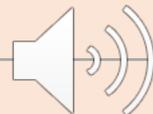
2024年度 メンバー構成

(特定・特定認定・診療看護師)



特定・特定認定・診療看護師 年間計画

	項目	内容
特定 行為 実践 (臨床)	特定行為実施管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定行為実施報告（データベース入力） ・ OJT評価実施報告 ・ 手順書の電カル挿入（新規区分の追加分） ・ 実施記録テンプレート化（新しい区分の追加分）
	業務管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践上の課題・問題点見直し ・ OJT進捗状況報告 ・ 手順書見直し
	プロモーション活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署内の掲示物作成、入れ替え ・ 医師に対する説明
	ブラッシュアップセミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能維持と関連行為の修練（要希望調査）
	リソースナース活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署勉強会などの開催やアドバイザー ・ 教育課関連研修のアドバイザー ・ RRS要員としてのコンサルテーション応需
教育	特定行為研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習における特定行為研修生への教育（ファシリテーション） ・ 特定看護師自身の学び直しの機会とする ・ 実習時におけるチューターの役割、実習患者の選定やレポート添削など
	現任教育研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般看護師に対する指導者
	特定行為研修症例発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修生に対する助言
	特定行為研修指導者育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者研修会受講
	次年度 受講生確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内外へのプロモーション活動 ・ HP更新
研究	事例検討会（院内）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関わった事例を後方視的に振り返り、特定看護師間の共有
	学会・研究会発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例報告など



活用に向けたプロモーション活動

専用ユニフォーム着用

- 特定行為を受ける患者さん、指示を出す医師、一緒に働く看護師、関わる多職種からの視認性を重視！

広報活動

- 院内掲示、HP掲載、広報誌作成

<チーム医療の要>

声をかけてもらい活用(協力)してもらえるように、多職種との普段からの関係性構築が大事

当院では2021年4月より

特定看護師が特定行為を実施します

～特定看護師が**特定行為**を行う**メリット**～

- ・医師の指示に基づき、患者さんの**安全・安楽**に配慮し、患者さんの**必要なタイミング**で迅速に対応します。
- ・看護ケアを行いながら、特定行為を行うことができます。

特定看護師とは、厚生労働省で定められた、「特定行為に係る看護師の研修制度」を修了した看護師です。
以下の**特定行為**を、医師の指示(手順書)をもとに実施します。



*診療看護師
大学院において、特定行為全21区分38行為を取得し、日本NP大学院協議会が認定した者

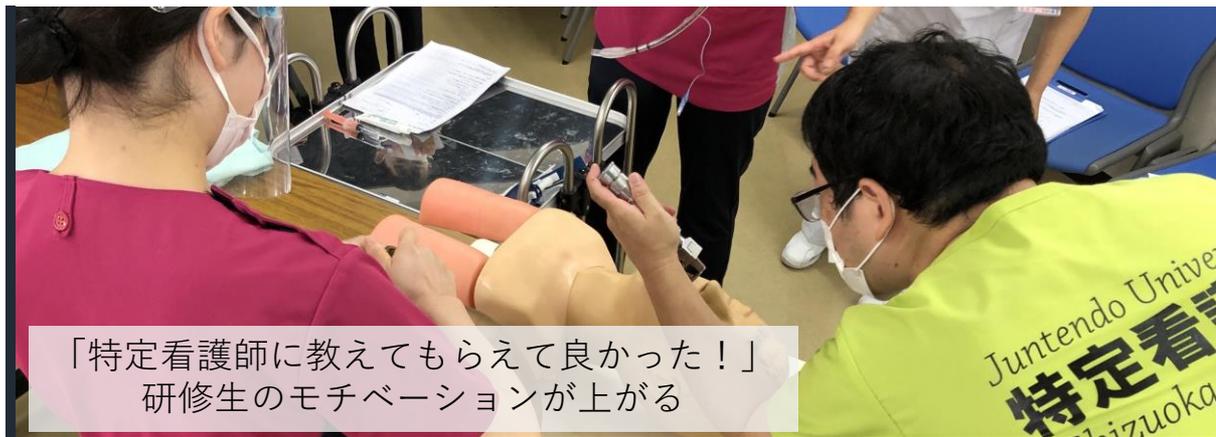
特定行為と対象の患者さん

- *人工呼吸器を使用している患者さん
呼吸の安定を図るため設定や気管チューブ位置を調整します
舌痙が軽減するよう鎮静薬の投与調整を行います
- *点滴を投与している患者さん
体内の水分や栄養状態を評価し、点滴を調整します
- *床ずれ(褥瘡)を有する患者さん
褥の処置を行います
創の治癒(圧閉鎖療法)を行います
- *集中治療が必要な患者さん
直接動脈から採血を行います
手首の動脈に採血用のカテーテルを入れます
- *傷にドレーンが入っている患者さん
ドレーンの抜去を行います

院内掲示ポスター



2022年度から特定看護師を教育へ活用



「特定看護師に教えてもらえて良かった！」
研修生のモチベーションが上がる



特定看護師が特定看護師を育てる

✓ 特定看護師教育

- ・演習におけるファシリテーション
- ・実習支援（患者調整やレポート添削）

→受講生支援を行うことが特定看護師自身の再学習や
継続教育の機会につながり、双方にとってメリットがある

✓ 院内現任教育

- ・特定行為研修以外の教育で力を発揮、共通科目が役に立ってる
- ・医療安全関係のインスリン勉強会

✓ 部署内勉強会

プロモーションにつながり、副次的効果として次期研修生増加に期待



今後の課題：OJT

研修→OJT→独り立ちまでの過程



特定行為の習得

- 症例数で規定するのではなく、修了後一定期間（1年間）は重点的にスキルの獲得に努める

活動時間の確保、 活動内容の明確化

- 活動日・内容・アウトカムを設定し、効果的なOJTを目指す（質の維持）



今後の課題：育成

部署・診療科による配置の偏在

- ・複雑化した疾患、併存合併の多い患者を安全にみるためには一般病棟にこそ必要。医療・看護の質向上のためには各部署に配置。
- ・クリティカル部門に集約化し、育成の後に一般病棟へ輩出
- ・戦略的な人材養成の必要性

安定的な受講希望者確保

- ・特定看護師の役割モデルを活かしプロモーション
- ・ポジションパワーのあるスタッフは充足。今後、活用の方向性を考えながら、どのような人材を組織で育成するか検討。

研修の質の維持

- ・特定看護師の指導者を育成
- ・実践で得られた知識・技術を科学的根拠に基づき指導する



今後の課題：活用・実践

特定看護師

- 自立した特定看護師
= マネジメント能力育成・発揮
- 臨床判断能力の醸成
- 継続教育
- 特定看護師同士の連携：
（救急）外来→ICU・
HCU→一般病棟における患者
評価、特定行為や看護提供の
継続性が必要
- 特定行為外の活動の可視化

看護管理者

- ジェネラリストとして、部署の師
長がどのように活用するか
- シームレスな特定看護師配置
の工夫
- 活動日の確保、内容の規定
- 部署によって確保状況が異なら
ないように、最低限の基準明確
化が必要

医師・院内システム

- 診療部や医師の認知度がいま
だ低い、または理解不足、偏在
の可能性あり
- 特定看護師のプロモーション不
足、いまだ活動の可視化が不
十分
- 特定行為、特定行為外の行
為について需要調査が必要
- 組織横断的活動（褥瘡回診、
RRS、血糖コントロール）





ご清聴ありがとうございました🎧))